




カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 26 年 10 月 28 日
主管学校名	埼玉大学教育学部附属幼稚園
P T A 会長名	富井 武敏

実施概要	主管校	埼玉大学教育学部附属幼稚園
	交流校	埼玉大学教育学部附属特別支援学校
	実施活動名	埼玉大学教育学部附属特別支援学校への夏休み親子遠足
	実施日時	平成 26 年 7 月 30 日 (水) 9 : 00-14 : 00
	実施場所	埼玉大学教育学部附属特別支援学校小学部及び 日常生活訓練棟「しいのきハウス」
	実施目的	交流 3 ヶ年計画を踏まえ、一貫した意義ある活動の流れで 4 年目を迎える。10 年以上続いている特別支援校生と埼大附小 4 年生児との交流授業の基礎となることを意識し、特別支援学校児童・生徒との交流活動を通して、楽しい時間を共有し互いに親しみの気持ちを育む。一緒に遊び、授業で学んだことを活かす実践の場を設けることで互恵性のある交流活動を継続し、共生意識の芽生えを大切にして取り組む。
実施内容	<p>① 園児と特別支援学校生「一緒に遊ぼう班」が共に水遊びやアスレチック、トランポリン、すいか割り、シャボン玉飛ばし等で遊ぶ。</p> <p>② 園児とその保護者に特別支援学校生「おもてなしをしよう班」による、すいか調理・提供のコミュニケーション促進活動。</p> <p>③ 特別支援学校の保護者や教員の話をつき、園児保護者は特別支援学校についての知識を深めた。</p> <p>④ 出会いとおもてなしに感謝して園児と保護者が園歌合唱。</p> <p>⑤ イベント終了後、お礼の絵手紙アルバム「ありがとうの本」を作成。幼稚園運動会にいらした特別支援学校 PTA 来賓の方へお渡しした。</p>	
実施方法	特別支援学校生・保護者は「一緒に遊ぼう班」「おもてなしをしよう班」に分かれて活動した。作業製品の展示。 園児・保護者は貸し切りバスにて特別支援学校を訪問した。特別支援学校生と一緒に遊び交流活動を行った。年長児の保護者が交流を通じて理解を深めたと同時に、年少、年中児保護者は次年度以降の活動につながる知識と経験を得た。埼大生もサポートの為、ボランティアとして参加した。	
参加人数	埼玉大学教育学部附属幼稚園の園児、保護者、兄弟姉妹児、副園長 (44 名) 埼玉大学教育学部附属特別支援学校 小学部児童、中等部・高等部の生徒、保護者 (12 家庭) 教員 (複数名) 埼玉大学教育学部の大学生 (2 名) 合計 : およそ 70 名	

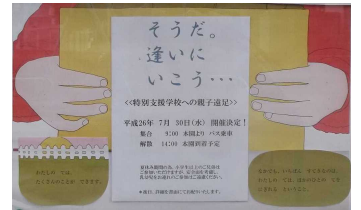
報告事項	内容	<p><事前打ち合わせ> 特別支援学校の教員や保護者による園児保護者への学校紹介・施設案内及び茶話会</p> <p><当日のスケジュール></p> <p>9 : 00 附属幼稚園集合</p> <p>9 : 05 全員集合の後、マンション西側道路へ移動、バス乗車、往路出発 </p> <p>9 : 50 JR 東日本研究開発センターにて降車、移動 </p> <p>10 : 00 特別支援学校到着 → 「しいのきハウス」ホールへ 「はじめましての会」 ご挨拶・注意事項</p> <p><u>交流&遊び</u> (*中・高等部の生徒によるおもてなし活動あり。小学部の児童が親子で遊びに参加) : 小学部 東グラウンド…スイカ割り、水遊び、アスレチック、シャボン玉 : 中庭 (ウッドチップ) …水鉄砲、ソリ遊び : 小学部遊戯室……………トランポリン : 渡り廊下……………カッタスイカのおもてなし、おしゃべり</p> <p>後片付け・着替え</p> <p>11 : 10 「ありがとうの会」 歌やお礼の言葉</p> <p>11 : 20 「しいのきハウス」ホールで昼食 (お弁当持参)</p> <p>12 : 20 昼食終了、後片付け、トイレ</p> <p>12 : 30 「さようならの会」 お礼のご挨拶 → JR 東日本研究開発センターへ移動</p> <p>12 : 40 バス乗車 復路出発</p> <p>13 : 30 附属幼稚園にて降車、解散 </p>
------	----	---

結果		<ul style="list-style-type: none"> ・天候にも恵まれ、ケガ、病気、事故なく参加者全員が安全かつ盛況のうちにイベントが完了した。 ・限られた時間内を、園児と保護者のペアは準備された好きな場所を自由に回遊しながら、その場にいる生徒・児童や保護者と場所や遊具を共有し、自然なかたちで遊びが発生、派生しておだやかな交流ができた。 ・真夏の太陽の日差しの中、水遊びは子どもたちの冒険心を刺激し、頭からつま先まで水浸しになった園児、児童が一緒に遊び、見守る教員や保護者の歓声とともに重なり緑の芝生にこだました。 ・スイカ割りでは、棒を持って目隠しをした子への声掛け、励まし、共感が、スタンバイ中の子どもたちや保護者から自然とあふれ、年齢、学校の垣根を越えて、クラブ活動のような一体感と盛り上がりを見せた。 ・支援校の「おもてなしをしよう班」によるスイカのお振舞いでは、戸惑っていた園児を上級生がやさしく手を繋ぎエスコートする様子もあった。そのやり取りに学校や家庭で日頃からなされているであろう姿を、園児保護者が垣間見られるシチュエーションが随所にあり感動をよんでいた。急かすことなく園児の歩幅に合わせてくれる気遣いが温かく、あゆみよりの大切さをあらためて教えられた。 ・参加者の多くから「無理なく、ゆるやかに、でも着実に」双方向のコミュニケーションを深めていける、今回のようなイベントを是非継続してほしい。との声が寄せられた。
	所感	
添付書類	収支決算書・領収書添付シート / 写真付き参加感想（園児・児童・生徒、保護者等参加者） / 参考資料 ※ホームページ並びに実施報告書への掲載 可	

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成 26 年 10 月 28 日		
学校名	埼玉大学教育学部附属幼稚園		
学年	年少～高校生	氏名	参加者

「いつもより（スイカが）甘くておいしい」（幼稚園児・年長）



ポスター

「お兄さんがやさしくて嬉しかった。」（幼稚園児・年中）
「小っちゃい子が後ろをついてくるんだよ。」（小学生・男児）



遠足のしおり

「楽しかった。また遊びたい。」（幼稚園児・複数回答）
「帰りたくない！」（幼稚園児・複数回答）
「かわいかった」（小学生）
「また来てほしい」（高校生）



活動に参加しての感想

埼玉大学教育学部附属幼稚園 カンガルーシップ活動
「埼玉大学教育学部特別支援学校への夏休み親子遠足」(活動及び交流写真)



いざ出発!



はじめましての会



スイカ割り



二人だと簡単だね



美味しいスイカをありがとう!



さようならの会



美味しい野菜を販売中



ありがとうの本

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成 26 年 10 月 28 日
学校名	埼玉大学教育学部附属幼稚園
氏名	

活動に参加しての感想

- ・特別支援学校校庭での体をめいっぱい使ったのアスレチックやスイカ割り、水鉄砲と楽しく遊ぶことができ、中高等部の生徒さんによるスイカのおもてなしの交流も良かったです。
小学校四年生での交流会の前の第一段階として幼稚園時代の特別支援学校の生徒との交流は、初めの第一歩になっているのではないかと思います。
長い目で少しずつ交流を継続していくことでお互い抵抗がなく関わりあっていけるのではないかと思います。
- ・特別支援学校のことを身近に感じ、より視野が広まったような気持ちになれ、親である私自身も少し成長したような気がします。
- ・広々としたグラウンドで水遊びや滑り台にスイカ割りなど、子供たちは大変楽しかったようです。
中高等部の皆さんがすいかをたくさんすすめてくださり、温かさを感じました。
- ・特別支援学校の皆様が温かく迎えて下さって、また美味しいスイカをたくさんご馳走になり楽しい思い出ができました。
短時間で、児童・生徒の皆さんと一緒に遊ぶことがあまりできなかったのが残念です。
今度も継続して多くの方が参加できると良いと思いました。
- ・広々とした校庭で遊具や水遊びで楽しく過ごすことができました。
初回ということもあり深く交流することは難しかったようですが、
中高等部の生徒の皆さんの優しいまなざしとおもてなしがとても印象深かったです。
- ・広々とした設備と先生方の温かさに触れ、のびのびと生活する生徒のみなさんの笑顔、
同じ附属学校にこのようなすばらしい学校がある事に誇りを感じます。子供もとても楽しい思い出になったようです。
- ・お兄さん、お姉さん方と一緒にスイカをご馳走になり、子供たちの交流は仲間意識を高めてくれたようでした。
また私共親も同じ仲間ということを再認識させていただき良い機会になりました。
支援学校の先生方、保護者の方々には本当にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。
心のもったおもてなしをありがとうございました。
- ・特別支援学校は大変美しく、子供が年齢の異なる生徒の皆さんと楽しく水遊びをしている姿に感動しました。
遠足の様子を見ていると、関わりを持つことに早すぎることはないのだと実感しました（子供・年少）。
- ・特別支援学校に皆様のご準備、おもてなしに感謝の気持ちでいっぱいです。
これからは私共幼稚園保護者が少しでも特別支援学校の皆様をおもてなしさせて頂ける機会があればと思います。
- ・特別支援学校の方々も屈託のない明るい表情をされていて、今を懸命に生きられておられるその純粋さにとても心を打たれました。
- ・同じ時間、同じ空間で遊びを共有できた事は子供にとって思い出に残る一日になったと思います。
特別支援学校の先生方、保護者の皆様に感謝を申し上げます。